

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400146
法人名	株式会社ウキシロケアセンター
事業所名	いこいの里 宇佐町
所在地	福岡県北九州市小倉北区宇佐町1丁目9-36
自己評価作成日	令和2年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和2年2月24日	評価結果確定日	令和2年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では「自分の親だったら」と考え、家庭の延長線上にある施設運営を行なっています。入居者様個々の状態に合わせ、食器拭きや掃除等できることを活かし役割を担って頂くことで、生活に対する自信が持てるよう支援に努めています。体操や歩行運動だけではなく、トイレや洗面への移動等、生活動作において自然と運動ができるよう配慮しています。職員全員が入居者様一人一人の状態を把握し、医師、看護師と情報の共有を行ないながら連携を深め、入居者様の体調管理を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いこいの里 宇佐町」は、周囲に昔ながらの商店街が残る住宅街に在り、利用者は職員と一緒に買い物や外食に出かける等、日常生活の継続や地域社会との繋がりを大切にしている。自治会に加入し、地域の夏祭りや敬老会、市民センターの行事に参加し、地域の方との交流が図られている。アセスメントは担当職員が実施し、利用者の日々の暮らしの様子を把握し、繕い物や食事のお手伝い等、個別ケアの支援を重視している。スピーチロックには特に意識し、事業所における事例についても研修を通して対応をしている。法人として組織力を活かして、職員の働き方と質の高いサービスを提供できる人材育成に取り組んでいる。その人らしい認知症ケアの支援に向けて、更に生活歴等の情報を詳しく把握するためのアセスメント帳票に移行中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="checkbox"/> 1. 毎日ある <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3. たまにある <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> 3. たまに <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="checkbox"/> 1. 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2. 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3. あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念をもとに施設目標を掲げ、職員全員が目標を持ち、ベクトルを合わせながら業務に努めている。防げる入院や事故が何なのか考え取り組み、入居者様に満足 of いくよう支援に努めている。	朝の申し送り時に理念を唱和し、職員一人ひとりが意識し、「自分の親だったら」を常に考え、利用者のその人らしい暮らし、思いを大切に支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地域の飲食店へ食事に出掛けたりしている。入居者様の社会が開けるよう努めている。	自治会に加入し、地域の夏祭りや敬老会、近隣の市民センターの行事に参加し、地域の方との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、地域活動に参加し、認知症についての理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での現状や問題点を報告し、参加して頂いている皆様の意見を頂き、職員間で真摯に受け止め話し合っている。	利用者代表、町内会長、地域包括センター職員の協力を得て2か月毎に開催している。事業所の取り組みや町内の取り組み、身体拘束等についての意見交換がされている	運営推進会議へ家族の参加がない状況があり、サービス向上に向けて家族の意見も貴重なものであり、参加いただける様、今後の工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターや町内の方々と交えて運営推進会議などで意見交換を行っている。生活保護課とも連携を図り、入居者様の情報共有に努めている。	介護保険制度についての問い合わせや地域包括センターより入居の問い合わせ等がある。生活保護受給者の入居もあり、生活保護課とも連携し情報共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で研修を行い、職員全員で身体拘束について話し合いを行なっている。運営推進会議を通じ、身体拘束についての現状等報告しており、拘束しない取り組みを実施している。	法人全体で定期的に身体拘束と虐待について研修をしている。運営推進会議でも身体拘束に関する意見交換がされている。不適切ケアがあった場合、解決に向けたケア学習を実施し職員に意識づけをしている。防犯対策上玄関は施錠しているが家族には了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて毎年学習を行なっている。職員間でも体調不良や精神的不安定な職員がいる場合はすぐに対処し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や管理者ミーティング等で権利擁護や成年後見制度について学習している。他事業所で利用されている方がいらっしやるため、情報の共有をおこなっている。	法人全体での研修がある。事業所で利用している方はおらず、関係資料を玄関フロアに設置し、必要があれば説明できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料や退去時等、重要な点は細かく丁寧に説明させて頂き、十分にご理解された上で契約を行なっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や御面会時にご意見やご要望を伺い、その都度職員間で協議し運営に活かしている。	玄関に意見箱を設置しているが投函はない。週に3~4回の面会の家族もあり、面会時に意見や要望を得るようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個々に意見を聞き、それを職員間で話し合い、改善策を考え会社に報告している。会社も協力的に対応してくれている。	ケアのあり方や改善策等、その都度、必要な場合にミーティングをしている。「きれいなものを見せたい」という職員の思いが、イルミネーション見物の夜の活動実施にも繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者ミーティングで代表へ管理者側からの意見、報告を述べる場があり、意見を反映している。給与や休日等職場環境が良くなるよう代表も就業環境の整備に力を入れている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別関係なく幅広く人材採用を行なっている。職員についても、やりがいのある職場となるよう意見交換を行ない、問題があれば早急に話し合いを行い問題解決に努めている。	職員採用については特に制限は設けておらず、外国人労働者の受け入れも検討している。法人として社宅・母子寮の就業環境の整備をしている。資格取得については奨学金制度の支援もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	関連施設全体で講習会をおこない、理念や方針、職員の心得など周知を図っている。	企業メッセージに「正直で美しく働こう」と掲げ、利用者の人権を尊重したケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、参加内容は他の職員に周知できるよう発表の場を設けるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員とも交流が持てるよう懇親会や宿泊行事も開催している。他施設の職員と交流を持つことで、情報の共有や問題解決等行なっており、サービスの向上に繋がっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自分の思いを上手に言葉に出来ない方もいる為思いを汲み取ることができるようスキンシップを図り、信頼関係の構築に努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月のお手紙を通して入居者様の様子を伝えたり、様子の変化などは常に電話連絡をおこなっている。ご面会時にもゆっくりにお話をする時間を設けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスについて入居者様とご家族へ説明を行い、納得された上で支援導入している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意見を尊重し、過剰な介助は避けている。認知症を理解した上で個性の1つとして考え、一人の人間としての対応を行なっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などがある際、参加を募ったり、毎月のお手紙や来所時、電話などで近況の報告や普段の様子などをお伝えしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、ご家族などへ手紙や電話連絡ができる環境を作っている。また、思い出の場所へドライブに出掛ける等の支援にも努めている。	家族からの電話があれば繋いでいる。家族が美容院にお連れされる方もおられる。知人の面会は、家族からの事前連絡があった場合につないでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室の掃除機かけや洗濯物たたみ等家事作業をして頂き、役割を担う事で生活への自信に繋がる支援に努めている。家事作業を通じ入居者様同士で談笑しながら作業されている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退去された方や御家族様にもできることは協力させて頂く旨を常にお伝えし、ご相談を頂ける様努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを汲み取ることができるよう常に言葉かけやスキンシップを図っている。外出の希望がある際は職員と一緒に外食する等の支援を行なっている。	入居時のアセスメントや家族の面会時、本人との会話や日々のかかわりの中で表情やしぐさから思いや意向の把握に努めている。現在、生活歴の情報を詳しく把握するためのアセスメント帳票に移行中である。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や御家族様の来所時等生活状況の情報収集に努めている。情報をもとにアセスメントを行い、生活支援に繋がるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者とこまめにコミュニケーションを図り、日々の変化に気付けるよう努め、職員間で情報の共有を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や医療機関等情報の共有を行ない、協議した上で本人の意向を踏まえ無理のない介護計画を作成している。	家族や医療関係者の意見や担当職員が実施するアセスメント、計画作成担当者が実施するモニタリング等を基に担当者会議にて本人本位のケア支援となるよう努めている。介護計画書のケア内容については実践チェック表を用い職員間で共有を図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間でカンファレンスを行い、第3者が見てもわかりやすい記録に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の変化に応じてサービスを変更する等職員間で話し合い対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族様や地域活動等資源の助けを頂き、施設内の狭い社会ではなく、広い社会で生活できる支援に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望やご本人の了解の上受診先を決め適切な医療が受けれるよう支援している。	大手町診療所をかかりつけ医として月2回の往診がある。訪問看護ステーションより週1回の訪問看護があり医療機関との連絡調整をしている。他科受診は家族同行でお願いしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、定期的な看護師の訪問で、ひとりひとりの健康管理や職員の医療に携わる上での指導を受けている。また看護師から得た情報を主治医に報告する等連携にも努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時期に病院関係者やご家族との連携を図り、状態などカンファレンスを行い連携に努めている。また、入退院支援の取り組みを算定し、ご家族様にも安心して入院して頂ける様努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、ご本人と話し合いを重ね、ご本人の一番良い方向性を考え支援を行っている。	入居時に重度化や終末期に関する指針を基に説明し、家族の意向を確認している。看取りは基本的に受け入れはしておらず、医療機関との連携を図り対応をしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回避難訓練を行い、その際救急隊の緊急時のレクチャーやミーティングなどで職員間の訓練、勉強を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様を交えて避難訓練を行っている。風水害時の避難についても町内会長や地域の方から意見を伺い、避難先の確認等を行っている。	火災避難訓練は年2回実施している。社内研修で「水害・土砂災害時における避難」の研修を実施し、災害時における避難計画書を作成し職員間での共有を図っている。5年分程の備蓄品を確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の生活歴や性格を把握し、人格を尊重できるよう言葉かけや介護支援に努めている。	さりげないトイレの声かけや日常の言葉遣いにおいても誇りやプライバシーを損ねないように心掛けている。いこいの里通信を家族に届けており、写真掲載には同意書を得て個人情報保護にも努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなかご自分の思いを言葉に出来ない方もいる為、その際は2択から選んで頂いたり、「はい、いいえ」で答えられる閉ざされた質問を行う等自己決定できる支援に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活リズムを把握し、希望に添えるよう努力している。特に食事等食べれる時に、状態に合わせて食事を提供するよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼夜メリハリがつくよう、就寝前はパジャマ更衣を行い、外出時はお出掛け着に更衣している。介助の際はご本人に衣服を選択して頂き、過ごしやすい衣類で過ごして頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	器や盛り付けにも工夫し、食事が楽しみになるようにしている。おやつ作り等、職員と一緒に作る等楽しみ協力しておこなっている。	食事は配食サービスにて提供している。月に一度は職員の手作りの料理を提供したり、アクティビティとしておやつ作りなどの楽しみもある。食器拭き等の手伝いをされる方もあり、一人ひとりの出来ることの支援もしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録に残し、状況の把握や摂取管理が出来るようにしている。摂取量が少ない時は言葉かけを行い無理のない程度に摂取を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施により口腔内の清潔保持に努めている。ケアをお断りされる方は嗽薬を使用する等個々に応じたケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行い、日中はトイレ排泄を促している。出来る限りオムツを使用しないよう排泄パターンの把握を行いトイレ誘導を行っている。	利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、タイミングを見ながら声かけや誘導を行い、排泄の支援に取り組んでいる。布パンツ使用の方もおられ排泄の自立に向けた支援もしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある入居者様には黄粉牛乳等摂取して頂き便秘予防に努めている。日々の体操に腸の蠕動運動に繋がる動きを取り入れている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めているが、入浴日に入らなかった方は後日入浴して頂く等清潔が保持できるよう支援している。また、週に1回は入浴剤を入れる等入浴を楽しんで頂けるよう努めている。	月曜と金曜日に入浴準備をしている。重度化の方は2名対応や利用者によっては同性対応もしている。ゆず湯等の季節の湯や入浴剤を入れたり、入浴を楽しめるよう工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態に合わせ臥床して頂き、入眠時は空調など調節し、快眠出来るような環境を提供している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師に助言、指示を頂き、薬の効果や副作用について職員一人一人がしっかりと把握するようにしている。薬が変わったときには様子観察を強化している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活全てがレクリエーションと考え、家事作業や遊び活動等個々に応じて役割を担って頂き生活の楽しみに繋がる支援につとめている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等季節を感じて頂けるよう支援に努めている。入居者様の希望に沿えるよう外食や買い物もやっている。	地域の店に買い物に出かけたり、近くの公園に散歩に出かけている。季節の花見物等計画されている。ドライブを兼ねて月に数回、法人の他の事業所に出かけ交流もしている。また、誕生日にはリクエストを受けて外食に出かけることもある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員で行っているが、買い物時の支払いは入居者様にして頂き、お金の大切さや買い物できるという自信に繋がるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば電話をかけたり、手紙を書いたりして頂いている。毎月ご家族様にどのようにして施設内で過ごされているかお知らせする手紙をお送りしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な空間作りに努め、臭いなどないように気をつけている。季節を感じる飾り付けなどを行い、居心地の良い環境作りを行っている。	居間の天井は高く開放感があり、壁には職員と利用者の共同作業による飾りつけが季節感をかもち出している。換気には気を払い1時間に1度は窓を開け換気に努めている。毎食後、テーブルや椅子、手すり等は消毒し、感染症等の対策を実施している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、椅子も人数以上に置き、ご自分の席を決めずに好きな場所に座れるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様やご家族様と話し合い、ご本人が生活しやすい空間作りを行っている。ご本人様の状態に合わせ、居室の移動も行っている。	居室には、利用者なじみの家具や写真等、思い出の品が置かれている。利用者の身体状況に応じたベッドの配置や家具の配置は動線に配慮し、壁にディスプレイする時は、画びょうを使用しない工夫等、安心・安全な空間を作り出している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な介護は行わず、本人に合った生活リズムを職員間で把握し、できる事はして頂き自信に繋がるよう生活支援を行なっている。		